

## 第7章 オーストラリアの教育課程

### 7-1 オーストラリアの教育制度の概要

オーストラリアは連邦制を採用しており、憲法規定に基づき、教育に関する事項は各州の責任とされている。そのため、初等中等教育も基本的に各州政府・教育省の管轄であり、学校教育課程基準のみならず、義務教育年限や中等教育開始学年など学校教育制度も各州により異なるという特徴を有してきた。

しかしながら、1980年代後半に連邦および各州教育大臣の合意により「国家教育指針」が策定されて以降、国家としての「統一性」は強化されつつある。特に、1990年代後半以降の全国学力調査の推進は、国家レベルで比較可能な教育成果の把握と「公正」な評価の実施を目的に、教育基準の「統一化」「共通化」をもたらすと同時に、教育制度・内容の「統一化」「共通化」も推し進めてきた。各州で義務教育修了年齢が延長されるとともに、2008年からはナショナル・カリキュラムの開発も進められ、2012年の試行期間を経て、2013年以降、徐々に実施に移されている。

オーストラリアでは、一般に、初等教育は Year 1 (6歳) から Year 6 (11歳) までの6年間、中等教育は Year 7 (12歳) から Year 12 (17歳) までの6年間であるが、そのうち Year 10 (15歳) までが前期中等教育(中学校)、それ以降が後期中等教育(高等学校)となっている。義務教育は、5歳もしくは6歳から Year 10 (15歳) までの10~11年間である。ただし、州によって若干の違いが見られ、例えば Year 7 までを初等教育にしている州もある。

高等学校を修了後、直接大学進学を希望する場合は、後期中等教育の2年間に日本の大学の一般教養課程に相当する科目を履修し、統一資格試験を受けなければならない。この試験も州によって異なり、例えば、ニューサウスウェールズ州では HSC (Higher School Certificate) と呼ぶのに対して、ビクトリア州では VCE (Victorian Certificate of Education)、クィーンズランド州では SC (Senior Certificate) というように名称も異なっている。

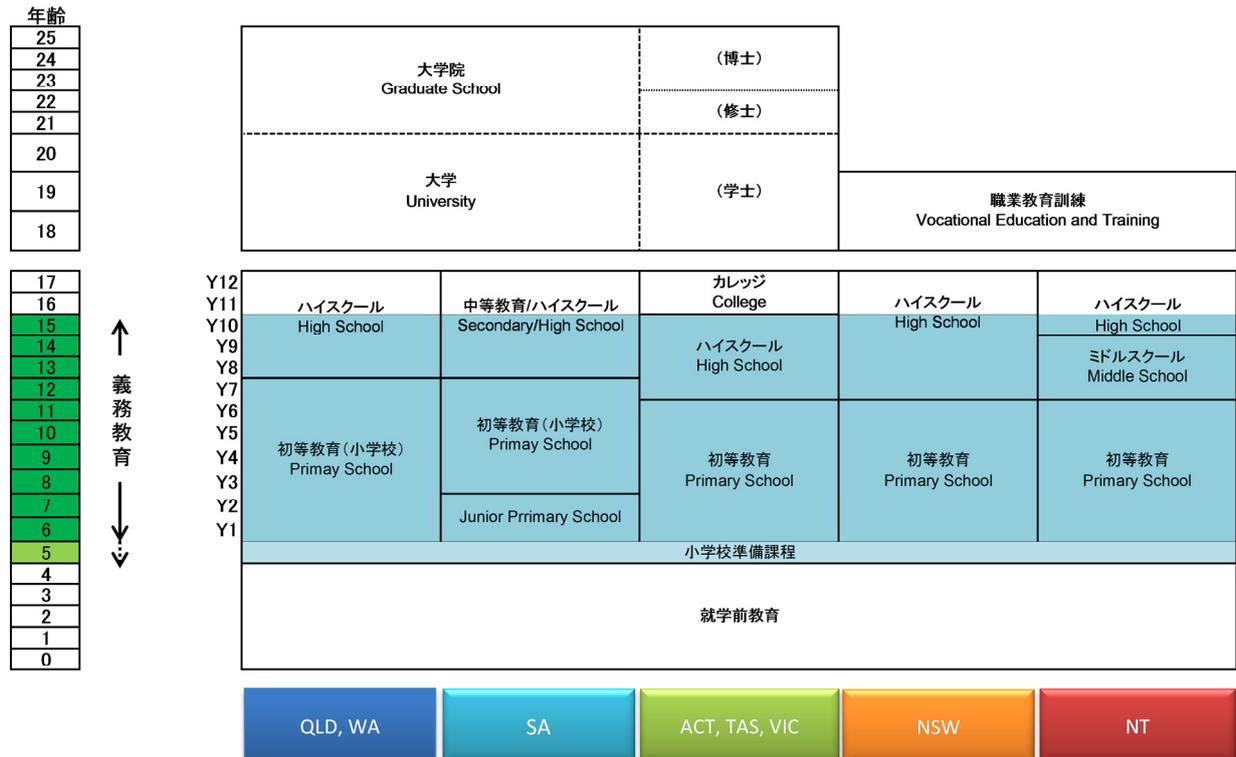
また、同国では、高等職業教育(専門学校、Vocational Education and Training: VET) が充実しており、TAFE (Technical and Future Education) や私立の VET カレッジも多数存在している。大学は、現在、39の公立大学と2つの私立大学がある。

各州の学校教育課程基準(カリキュラム・フレームワーク)は、主にカリキュラム開発および評価・資格付与を担う州政府組織により開発・策定される。州により名称は異なるが、例えばビクトリア州では、ビクトリア州カリキュラム・評価機関(Victorian Curriculum and Assessment Authority: VCAA)、ニューサウスウェールズ州ではニューサウスウェールズ州教育委員会(Board of Studies NSW) がそれに該当する。一般的に州教育省(Department of Education) が州立学校の運営および教育のみに責任を持つのに対し、これらの機関は、州内のすべての学校を対象にサービスを提供している。

2008年4月には、発足したばかりのラッド(Rudd, K.) 労働党政権により、かねてより懸案事項とされてきたナショナル・カリキュラムの開発を目的に、ナショナル・カリキュラム委員会(the National Curriculum Board: NCB) が設立された。そして2009年5月には、オーストラリア・カリキュラム評価報告機構(the Australian Curriculum, Assessment and Reporting Authority: ACARA) がその主な役目を引き継いだ。先に指摘したように、オーストラリアでは憲法規定により、教育に

関する権限は州政府にある。そのため、連邦政府とは独立した別機関を創設することにより、連邦レベルで開発・策定されたナショナル・カリキュラムを、各州で実施する体制の構築が図られたのである。

現在、ACARA は主として、①特定の学習領域の就学前から 12 年生までのナショナル・カリキュラムの開発、②児童生徒の教育成果を測定するための、ナショナル・カリキュラムに沿った国家評価プログラムの実施、③国家レベルでの評価データ収集とその報告を担っている。



注: QLD(クイーンズランド州), WA(西オーストラリア州), SA(南オーストラリア州), NT(北部準州), NSW(ニューサウスウェールズ州), ACT(首都直轄区), VIC(ビクトリア州), TAS(タスマニア州)

出典: ウェブサイト「オーストラリアの教育制度」(<http://www.wca-au.com/education.htm>) 及び “International Education Consulting: Australian Education System” (<http://www.myqual.com.au/index.php?id=4048>)などを参考に調査チーム作成

### オーストラリアの学校系統図

同国では、各州が授業時間数や週休日等を独自に定めている。ビクトリア州の場合、1 週間の授業時数は「学校教育に関する政策・助言の手引き」で規定されており、少なくとも 25 時間としている。ただし、1 単位時間についての規定は明文化されていない。週休日については、州立学校の場合、「教育訓練改革規則 2007」で「州教育大臣が定める」と規定されており、州教育省ホームページにて一年分が公開されている。

(青木麻衣子、調査チーム)

## 7-2 変化が激しく多様化する世界を生きる「21世紀の学習者」を育てる学校教育を目指して

オーストラリアでは、2008年から同国初のナショナル・カリキュラム（「オーストラリアのカリキュラム」）の開発が行われている。憲法規定により教育に関する権限を各州政府が持つ同国にとって、ナショナル・カリキュラムの開発・導入は歴史的な出来事である。各州政府の合意に基づき設立された連邦機関であるオーストラリア・カリキュラム評価報告機構（ACARA）が、この改革を主導する。現在、英語、算数・数学、科学、社会の四領域では、一年間の試行期間を経て、2013年1月から本格的な実施へと移行している。また、その他の主要学習領域についても、段階的に開発・準備が進められており、順次実施に移される予定である。

「オーストラリアのカリキュラム」の特徴は、端的に言えば、いわゆる教科にあたる各学習領域（discipline-based learning areas）の教授・学習と、汎用的能力（general capabilities）の育成、および領域横断的な優先事項（cross-curriculum priorities）の扱いとが同程度に重視されていることである。これは、「オーストラリアのカリキュラム」の構造とその示し方から明らかである。

同カリキュラムでは、教科学習・汎用的能力・領域横断的な優先事項という三つの面がそれぞれの顔をもち、いずれの面からもカリキュラムの組み立てが可能で用意されている。すなわち、教科ごとに示されるのが一般的な教育・学習内容の連続性・継続性を、汎用的能力および領域横断的な優先事項といった異なる区分・視点からも捉え直すことができるのである。これを可能にしているのが電子媒体でのカリキュラムの配信である。電子版カリキュラムでは、上記三つの軸を前面に据えたカリキュラムの組み立てが即時可能であり、それぞれの軸を中心とした教育・学習の流れを、容易に示すことができる。また、学校や教員が最新のデータ・情報に沿った教授・学習内容や参考例の蓄積から、自らの必要に応じた内容・教材作成のヒントを即時に入手できるとの利点もある。

「汎用的能力」は、各学習領域をまたがって必要とされる知識、スキル、行動および態度を示したものである。具体的には、リテラシー、ニューメラシー、ICT技能、批判的・創造的思考力、倫理的行動、異文化理解、個人的・社会的能力の七つの能力が含まれる。これらはいずれも21世紀を生き抜く上で必要不可欠な知識、スキルや態度と見なされている。一方、「領域横断的な優先事項」には、オーストラリアのすべての子どもが学習すべき現代的課題として、アボリジナルおよびトレス海峡島嶼民の歴史と文化、アジアとのかかわり、持続可能性の三つが含まれている。これらは汎用的能力のような知識、スキル等ではなく、各学習領域に内容や視点を提供する役割を担っている。

このように同国初のカリキュラムにおいて、汎用的能力が各学習領域と同等に重視される背景には、変化が激しく益々多様化する世界を生きる21世紀の学習者（21<sup>st</sup> Century learners）にとって、柔軟で分析的な考え方や他者と協働する資質、学問横断的な能力が必要不可欠だとの政府の強い信念が存在する。「オーストラリアのカリキュラム」の開発は、2008年に発表された新たな国家教育指針である「メルボルン宣言」を公的な根拠としているが、そこで示された教育目標は、①オーストラリアの学校が公平性と卓越性を促進すること、②オーストラリアの若者が、成功した学習者、自信に満ちた創造的な個人、活動的で教養のある市民となることの二つである。特に後者に示される人材の育成にとっては、リテラシーやニューメラシーをはじめとする基本的な知識・スキルはもちろんのこと、自らの立ち位置や世界を認識し、他者と協働する能力や態度を身に付けることが不可欠である。そして、それを保障するために、すべての若者に公正で質の高い学校教育を保障する必要がある。

さらに、このような構造を持つナショナル・カリキュラムの開発を導いたもう一つの要因として、1990年代後半以降、継続的に実施されてきた全国学力テストの影響も無視できない。1996年に同国で初めて実施されたリテラシーに関する全国調査の結果、同国の子ども達の多様なリテラシーの程度が明らかにされた。英語を母語とする子どもでも約3割が一定の基準に達しておらず、先住民の子どもではその割合が約6～7割へと大幅に増加することから、すべてのオーストラリア人に基礎的なリテラシー、ニューメラシーの習得を保障する教育の必要性が強く主張された。2003年以降は、リテラシー、ニューメラシーのほか、三年に一度の割合で、科学的リテラシー（Science Literacy）、シティズンシップ（Civics and Citizenship）、ICTリテラシー（Information and Communication Technology (ICT) Literacy）の領域でも抽出による到達度調査が行われている。これらの領域の選定に、PISAやTIMSS等の国際的な学力調査の影響があることは、明らかである。

現在、オーストラリアでは、「メルボルン宣言」で掲げられた国家目標を実現するため、ナショナル・カリキュラムの開発・実施に加え、教師教育の改革も進められている。ACARAと同様の連邦機関である「オーストラリア教授、スクール・リーダーシップ機構（Australian Institute for Teaching and School Leadership : AITSL）」が、この改革を主導する。具体的には、教員および学校長等のスクールリーダーを対象とした各スタンダードの開発やこれらのスタンダードを基盤とした資格認証制度の整備、オンラインを中心とした教員研修ツールの開発等が行われている。

### 7-3 「汎用的能力（general capabilities）」の語の使用について

「汎用的能力」は、「メルボルン宣言」（2008年）で掲げられた国家目標、すなわちオーストラリアのすべての若者が成功した学習者、自信に満ちた創造的な個人、活動的で教養のある市民となるのを実現する上で、必要不可欠なものとして捉えられている。「オーストラリアのカリキュラム」開発に際しても、すべての学習が、これまでの伝統的な学校教育カリキュラムで示されてきた教科・領域にあてはまるものではないため、特に21世紀を生きる子ども達に必要な汎用的能力の育成を、学校が支援する必要があることが確認されている。同カリキュラムにおいて「能力（capability）」とは、知識（knowledge）、スキル（skills）、態度（behaviours）と気質（dispositions）を網羅するものと見なされている。児童生徒が、複雑かつめまぐるしく変化する環境のなかで、彼らが習得した知識やスキルを効果的かつ適切に応用したとき、彼らはその「能力」を身に付けたといえることができる。

また、「オーストラリアのカリキュラム」を実践する上で重要なこととして、それらの「能力」がより「汎用的・一般的（general）」であることに自覚を持ち、カリキュラム全体にまたがって育成されるべきことが挙げられている。「メルボルン宣言」でもカリキュラムの中心に位置付けられる知識、理解、スキルとして、①さらなる学習と成人としての生活を構築する上で必要な知識、理解、スキルおよび価値観の確固とした基礎（a solid foundation）、②新しい考え方を創造し、それらを実際に応用するための学習や技能を習得可能にする深い（deep）知識や理解、スキルおよび価値、③柔軟で分析的な考え方や他者と協働する資質、新しい専門的知見を習得するための学問横断的な能力を支える汎用的能力（general capabilities）が示されている。「汎用的能力」はこのように各教科の学習を円滑に進める上での基礎・基本であると同時に、変化の激しい世界を生き抜く上で「広く一般的」に必要とされる一連の能力の集合であるといえる。

「汎用的能力」という用語の使用と定義については、オーストラリアでもこれまでに繰り返し議論が為されてきた。1992年には、主として職業教育訓練に関する調査報告書のなかで、七つのキー・コンピテンシー（key competencies）の重要性が指摘されている。また、2002年にはオーストラリア・ビジネス審議会がこれをもとに八つのエンプロイヤビリティ・スキル（employability skills）を特定し、その必要性に言及している。しかし、ACARAの前身であるナショナル・カリキュラム委員会（NCB）は、このようないわゆる学術用語が使用する人によって異なった意味を持って使われることを十分に認識していた。そのため、すでに広く普及し、かつ各州で使われている用語は避け、今後、オーストラリア全体で使用していく言葉として汎用的能力（general capability）を選択したと言われている。「オーストラリアのカリキュラム」の開発過程では、すでに関係者を中心に幾度も協議の場が持たれてきたが、特段、この用語の使用について、批判的な見解は出されていない。

#### 7-4 「オーストラリアのカリキュラム」

2008年にその開発が始められたナショナル・カリキュラム（Australian Curriculum：以下「オーストラリアのカリキュラム」）は、現在、第一段階として、英語（English）、算数・数学（mathematics）、科学（science）、歴史（history）の四領域ですでに就学前（Foundation：F）～10年生までのカリキュラム執筆作業が完了し、一年の試行期間を経て、2013年から各州で実施されている。また、第二段階として地理（geography）、言語（languages）および芸術（the Arts）、さらに第三段階として保健体育（health and physical Education）、ICTとデザインおよび技術（ICT and Design and Technology）、ビジネスと経済学（Business and Economics）、シティズンシップ（Civics and Citizenship）で開発・執筆作業が進められており、順次、試行・実施されることとなっている。

##### 7-4-1 重視して育成しようとしている特色ある「能力やスキル」の内容

「オーストラリアのカリキュラム」は、学校で教えられる基礎・基本を示すものである。その構造は、教科に基づいた学習領域（discipline-based learning areas）、汎用的能力（general capabilities）、領域横断的な優先事項（cross-curriculum priorities）の三層から成る。

「汎用的能力」は、学習領域をまたがって開発・応用される必要のある知識、スキル、行動および態度を示したものである。具体的には、リテラシー（literacy）、ニューメラシー（numeracy）、ICT技能（ICT competence）、批判的・創造的思考力（critical and creative thinking）、倫理的行動（ethical behaviour）、異文化理解（intercultural understanding）、個人的・社会的能力（personal and social competence）の七つの能力が含まれる（表1参照）。これらは、「教科に基づいた学習領域」の学習の支えとなるとともに、これらの学習を通して涵養される。なお、「オーストラリアのカリキュラム」における「能力」（capability）とは、知識（knowledge）、スキル（skills）、態度（behaviours）と気質（dispositions）を含むものであり、学校内および学校外で涵養されるべきものと考えられている。

表 1 七つの汎用的能力 (general capabilities) の内容

リテラシー(literacy)	児童生徒は、学校で自信を持って学習し、コミュニケーションするスキルを発達させ、有能な(effective)個人、コミュニティの構成員、労働者および市民となることを通して、リテラシーを身に付ける。これらのスキルには、すべての学習領域で、正確かつ明確な目的を持って、聞くこと(listening)、読むこと(reading)、鑑賞すること(viewing)、話すこと(speaking)、書くこと(writing)、印刷・映像・オーディオ資料を創ること(creating)を含む。
ニューメラシー( numeracy)	児童生徒は、学校で、また学校を離れた実生活において、数学を使うスキルと自信を発達させることを通して、ニューメラシーを身に付ける。学校教育の文脈では、ニューメラシーは、児童生徒がすべての学習領域の理解に必要な、あらゆる数学的知識やスキルを認識し、それに従事することを意味する。
ICT 技能 (ICT competence)	児童生徒は、ICT を効果的に活用し、すべての学習領域で、または学校を離れた実生活において、問題を解決し、他者と協同するために必要とされる情報やアイデアに適切にアクセスし、創造し、それを活用することを学ぶことで、ICT の能力を発達させる。
批判的・創造的思考力 (critical and creative thinking)	児童生徒は、知識、アイデア、可能性を統合、評価し、新たな方法・解決法を必要とするときにそれらを活用することで、批判的・創造的思考力や推察力を発達させる。これは、すべての学習領域で、理由、論理、処理能力、想像力およびイノベーションを要求する活動において深く、幅広く考える学習を含む。
倫理的行動 (ethical behaviour)	児童生徒は、倫理的事項を認識し理解すること、合理的判断を下すこと、それにより各人の倫理的枠組みを発達させることにより倫理的理解を涵養する。これは、人間生活における倫理原則や価値の役割を理解する、品位を持って、また他者の権利に敬意を払い行動する、公共善のために行動する意志を持つことを含む。
異文化間理解 (intercultural understanding)	児童生徒は、他者との関係において自己を理解することにより異文化間理解を発達させる。自身の文化や信条、他者のそれらを尊敬し享受することを学ぶ。これは、違いを認め、つながりを構築し、相互理解を確立することにより、言語的・社会的・文化的に多様な人々と従事し、個人、グループ、そして国家のアイデンティティがどのように多くの異なる歴史や経験によって形作られるのかを理解することを含む。学校教育の文脈では、児童生徒が言語や制度・慣例 (institution)、実践の多様性について学習し、グローバルな多様性に関する複雑な問題についての視点を発達させることを含む。
個人的・社会的能力 (personal and social competence)	児童生徒は、自分自身および他者について十全に理解し、お互いの関係性や人生、学習、仕事を効果的に運用することを通して個人的・社会的能力を発達させる。これは、自らの感情を認識・統合し、積極的な関係性を確立し、責任ある決定を下し、チームで効果的に動き、困難な状況にも建設的に立ち向かうことを含む。

出典：ACARA、*The Shape of the Australian Curriculum Version 3*、October 2011、pp.21-22より抜粋

また、「領域横断的な優先事項」には、すべてのオーストラリア人の子どもが学習すべき現代的課題として、アボリジナルおよびトレス海峡島嶼民の歴史と文化 (Aboriginal and Torres Strait Islander histories and cultures)、アジアおよびその地域のかかわり (Asia and Australia's engagement with Asia)、持続可能性 (Sustainability) の三つが含まれている。これらは「汎用的能力」のような知識・スキルではなく、各学習領域に内容や視点を提供するものである。

## 7-4-2 教育課程に「能力やスキル」が重視されている社会的・文化的背景およびその根拠

ACARA が主導するナショナル・カリキュラムの開発は、2008 年 12 月に MCEETYA により発表された新たな国家教育指針である「メルボルン宣言」を根拠とする。「メルボルン宣言」では、今後約 10 年間の国家教育目標として、以下の二点が示された。

目標 1：オーストラリアの学校教育は、公平性と卓越性を促進する。

目標 2：オーストラリアのすべての若者は

- 成功した学習者となる。
- 自信に満ちた創造的な個人になる。
- 活動的で教養のある市民となる。

また、「目標 2」の三項目については、具体的に以下の説明が付された。これらの内容は、同宣言のなかで 21 世紀の学習者（21<sup>st</sup> Century learners）にとって必要不可欠だと認識されており、ナショナル・カリキュラムの開発にあたって汎用的能力が重視かつ必要とされる基盤を提供するものである（図 1 は関係図）。

成功した学習者とは…

- ・ 自らの学習のなかで活動的な役割を学び、そして実践する能力を成長させる。
- ・ 全ての学習領域で成功するための基礎としてのリテラシーやニューメラシーのスキルを習得し、創造的／生産的な技術、特に ICT の使用者となる。
- ・ 基礎的な学問領域を学習した結果、深く論理的に考えることができ、確固としたやり方で証拠を得、それを評価することができる。
- ・ 創造的、革新的かつ思慮に富むと同時に、様々な学習領域および分野で生じる問題を解決することができる。
- ・ 個人で計画を立て、チームと協同し、意見を交換することができる。
- ・ 自らの依って立つ世界を意識し、物事がなぜそのようなかたちに落ち着いているのかを考えることができる。
- ・ さらなる教育、訓練もしくは雇用における継続的な成功の過程にあり、人生を通して情報に通じた学習・雇用についての決定をなし得る知識を獲得する。
- ・ 自らの可能性を開花させるための積極的な姿勢を持つ。

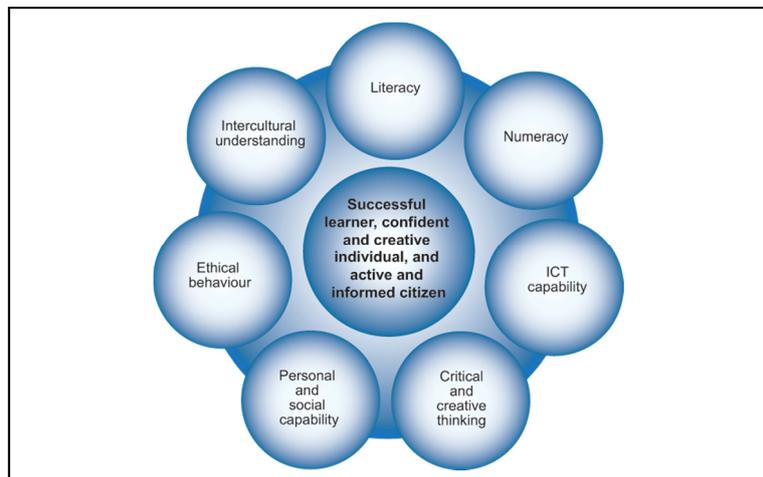
自信に満ちた創造的な個人とは…

- ・ 自尊心や自己認識、個人のアイデンティティの感覚をもち、自らの感情、精神的、身体的な安定性を管理することができる。
- ・ 自らの人生や将来について楽観的な感覚を持つ。
- ・ 仕事に積極的に関与し、意欲を示し、自らの創造的な能力を利用する。
- ・ 正直さや信頼、共感能力、他者の尊重といった個人的な価値や属性を成長させる。
- ・ 健康的で、満足した生活を作り上げ、維持するための知識や理解、そして価値観を有する。
- ・ やりがいのある、生産的な仕事を得るために、大学や中等教育後の職業的資格を獲得するための自信や能力を持つ。
- ・ 他者との良好な関係を築き、有益な関係を構築し、維持する。
- ・ 家族、コミュニティ、仕事の同僚として、自らの可能性に満ちた生活のために、準備を怠らない。

- ・ 好機を逃さず、自らの人生についての論理的かつ情報を得た上での決定ができ、自らの行動に責任を持てる。

活動的で、教養のある市民とは…

- ・ 道徳的かつ倫理的に誠実に行動する。
- ・ オーストラリアの社会的、文化的、言語的、宗教的な多様性を肯定的に評価し、オーストラリアの政治システム、歴史、文化を理解する。
- ・ 先住民文化の価値を理解し、認め、先住民と非先住民間の和解への貢献やそこから得る利益に関する知識や技能そして理解を有する。
- ・ 民主主義、公平性、正義に関する国家的な価値を追求し、オーストラリアの市民生活に参加する。
- ・ 特にアジア諸国の文化を中心に、他文化との関係性を築き、コミュニケーションをとることができる。
- ・ 特に自然、社会環境を維持し、改善するための共通善のために動く。
- ・ グローバル、ローカルな責任を持った市民となる。



出典： <http://www.australiancurriculum.edu.au/GeneralCapabilities/Overview/General-capabilities-in-the-Australian-Curriculum> より抜粋

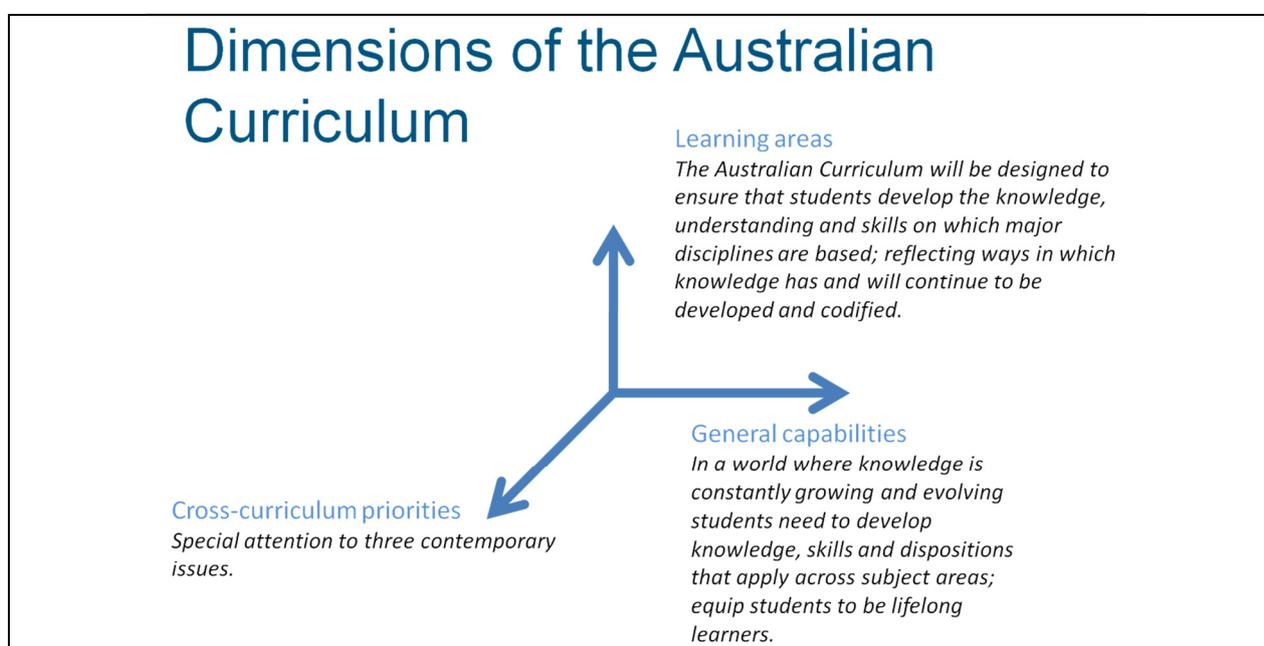
図1 「オーストラリアのカリキュラム」における汎用的能力の構造

これらの目標を達成するために「メルボルン宣言」では、連邦および各州政府が協同で取り組むべき八つの領域が掲げられているが、その一つに「世界水準のカリキュラムと評価の推進」(promoting world-class curriculum and assessment)がある。同宣言では、カリキュラムの中心に位置付けられる知識、理解、スキルとして、①さらなる学習と成人としての生活を構築する上で必要な知識、理解、スキルおよび価値観の確固とした基礎 (a solid foundation)、②新しい考え方を創造し、それらを実際に応用するための学習や技能を習得可能にする深い (deep) 知識や理解、スキルおよび価値、③柔軟で分析的な考え方や他者と協働する資質、新しい専門的知見を習得するための学問横断的な能力を支える汎用的能力 (general capabilities) が示されている。これらの知識、理解、スキルは、言うまでもなく「オーストラリアのカリキュラム」を構成する三要素として具現化された。

なお、政府主導のプロジェクトではないが、21世紀型スキル（21<sup>st</sup> Century Skills）として示されている知識・スキルと「オーストラリアのカリキュラム」の学習領域や汎用的能力との対応関係についても連邦教育省等によりすでに整理が為されている。また、各汎用的能力の重要性に関するこれまでの研究動向の整理・活用とともに、アジア諸国の教育改革動向に関する調査研究も進められている。そのため、当然のことだが、国内外で進められる研究等で得られた知見の「オーストラリアのカリキュラム」への影響も少なくない。

### 7-4-3 「能力やスキル」の位置付け（教育課程全体での位置、基準の構造や示し方）

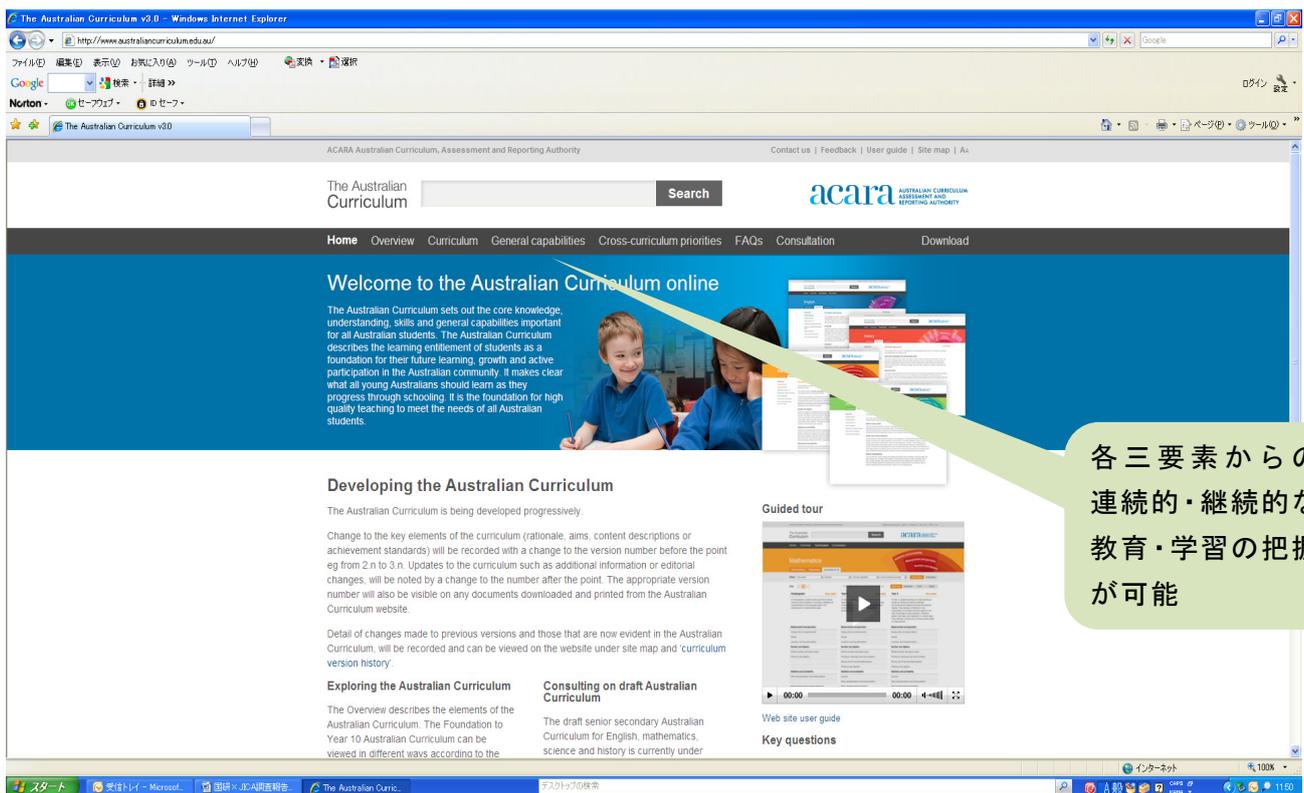
「オーストラリアのカリキュラム」は、①教科（専門）ごとの学習領域（discipline-based learning areas）、②21世紀を生き抜く上で必要不可欠なスキルとしての汎用的能力（general capabilities）、③現代的な領域横断的優先事項（contemporary cross-curriculum priorities）の三要素で構成される。これらの関係性は、図2のように示される。



出典：ACARA 訪問時のプレゼンテーション資料（Mr. Robert Randall 提供）より抜粋

図2 「オーストラリアのカリキュラム」の構造図

上記図2で提示しようとしていることは、「オーストラリアのカリキュラム」においては、①教科ごとの学習領域、②汎用的能力、③領域横断的優先事項のそれぞれが多面的に現われており、①～③の区分ごとに異なる見方でカリキュラムを捉えることが可能だということである。すなわち、「オーストラリアのカリキュラム」は、学習領域（KLA）ごとに示されるのが一般的である教育・学習内容の連続性・継続性を、汎用的能力および領域横断的優先事項といった異なる区分・視点からも示す・捉えなおすことができるという特徴を持つ。同カリキュラムはウェブ版のみでの運用を原則とするが、ウェブサイト上でも、これら三要素それぞれを軸とした教育・学習の流れを学年ごとに確認することができる（図3参照）。



出典： <http://www.australiancurriculum.edu.au/English/Rationale> より抜粋

図3 「オーストラリアのカリキュラム」ウェブサイト

#### 7-4-4 各教科と「能力やスキル」との関係、具体的な示し方

各学習領域のカリキュラムは、①理念 (rationale)、②目標 (aims)、③カリキュラムの内容 (curriculum content)、④達成スタンダード (achievement standards) の項目で構成される。その大部分を占める「カリキュラムの内容」では、「内容に関する説明 (content descriptions)」とそこで習得すべき知識、スキル等が具体的に示される。

例えば、「英語」では、児童生徒がオーストラリア英語についての理解を深め、その習得を支援するのを目的に、「言語 (Language)」、「文学 (Literature)」、「リテラシー (Literacy)」という三つのストランドが用意されている。これら三つのストランドは、その下位にさらにそれぞれ四～五つのサブストランドを構成する。例えば「言語」のストランドであれば、「言語の種類と変化」や「相互行為のための言語」等のサブストランドを持ち、このサブストランドごとに、それぞれの学年で習得すべき内容が具体的に示される。また、各サブストランドに対応するかたちで「内容の詳細 (curriculum elaborations)」も併記されるが、これは実際の教育活動に従事する学校および教員が、児童生徒の実態に即して学校カリキュラムを開発する際の補足資料やヒントとして用意されているものである (図4参照)。

【6年生】

「英語」は Language, Literature, Literacy の三つの ストランドにより構成、その下に サブストランドを設け、具体的な内容を記載

Language	
Language variation and change	Elaborations
Understand that different social and geographical dialects or accents are used in Australia in addition to Standard Australian English (ACELA1515)	<ul style="list-style-type: none"> <li>recognising that there are more than 150 Aboriginal languages and two Torres Strait Islander languages and that they relate to geographic areas in Australia</li> <li>recognising that all languages and dialects are of equal value, although we use different ones in different contexts, for example the use of Standard Australian English, Aboriginal English and forms of Creole used by some Torres Strait Islander groups and some of Australia's near neighbours</li> </ul>
Language for interaction	Elaborations
Understand that strategies for interaction become more complex and demanding as levels of formality and social distance increase (ACELA1516)	<ul style="list-style-type: none"> <li>identify and appreciate differences in language used in diverse family settings</li> </ul>

学校・教員がカリキュラムを開発する際の 補足・ヒントを提供

ACARA | The Australian Curriculum | Version 2.0 dated Monday, 17 October 2011 61

出典：ACARA、*The Australian Curriculum English Version 2.0*、October 2011、p.61.より抜粋

図4 例)「オーストラリアのカリキュラム」英語に示される「カリキュラムの内容」

汎用的能力は、各学習領域においては、それが適用可能な場合には「内容に関する説明」および「内容の詳細」で示される。先にも言及したように、「オーストラリアのカリキュラム」は、原則すべてウェブ版のみで公開されるため、以下表2に示すアイコンを用い、各内容のどの項目でどの能力が育成されるのかが提示されている。また、ウェブサイト上のフィルター機能を用いることにより、各内容の(特定の)能力を明示させることもできる。各「内容」に関する記述においては、各項目で一つの汎用的能力が示されていることもあれば、二つ以上の能力の育成に言及されていることもある。

これらの汎用的能力のなかには、リテラシーやニューメラシー、ICT技能のように、英語や算数・数学等、既存の学習領域のなかで必然的に育成が図られる能力もある。しかしながら、「オーストラリアのカリキュラム」では、これらの能力の育成が、学校・教室活動のなかで、意図的かつ継続的に行われるべきだと考えられている。そのため、「オーストラリアのカリキュラム」のウェブサイトでは、各学習領域を視点とした内容の提示のみならず、汎用的能力を基軸とした展開も示される必要があると考えられているのである。

表 2 七つの汎用的能力（general capabilities）を示すアイコン

リテラシー（literacy）	
ニューメラシー（numeracy）	
ICT 技能（ICT competence）	
批判的・創造的思考力（critical and creative thinking）	
個人的・社会的能力（personal and social competence）	
倫理的行動（ethical behaviour）	
異文化理解（intercultural understanding）	

出典： <http://www.australiancurriculum.edu.au/GeneralCapabilities/Overview/General-capabilities-in-the-learning-areas> より抜粋

この汎用的能力を視点として構成されたカリキュラムでは、各汎用的能力の、①それらの特質と範囲とを記述する導入部分とそれらの学習領域における位置付け、それらが必要とされる根拠、②学習の連続性を支える構成要素、③児童生徒が学校教育段階の特定の段階において、無理なく発達させていることを期待される知識、スキル、態度および気質を示す学習の連続性が示される。また特に②学習の連続性を支える構成要素では、各能力に含められる行為（process）や知識（knowledge）が具体的に提示されている。例えば、リテラシーには、「聞く、読む、眺めることを通してテキストを理解すること」と「話す、書く、創造することを通してテキストを構成すること」という二つの行為が含まれており、それらはさらに細かく、テキスト、文法、語彙、映像に関する知識の習得を必要とする。

これらのカリキュラムの内容に続いて、「オーストラリアのカリキュラム」では、「達成スタンダード」が示されるが、これは、児童生徒が一般的に理解し、できるようになることを明示したものである。評価の基準はもちろんのこと、教員が評価を行う際の目安として活用できるよう、児童生徒の作業・成果例（student work samples）も盛り込まれている。これらの情報も、ウェブサイトでの公開を原則とするカリキュラムの強みを生かし、オンライン上で随時更新されていく予定である。また、汎用的能力についてはその評価の難しさが既に随所で指摘されているところだが、PISA 等を含む学習到達度調査の活用、4 年生、8 年生修了時の指標の開発等、今後のさらなる展開が期待されている。

なお、各学習領域のカリキュラムは基本的に学年ごとに構成される。しかし、子どもの成長・発達段階を考慮し留意すべき区分として、①F～2 年生、②3～6 年生、③7～10 年生、④義務教育後の後期中等教育段階にあたる 11・12 年生の四つの区分も示されている。

#### 7-4-5 「能力やスキル」を育成するための方法（システムや現場での取り組みの具体例）

##### (1) 各州における「オーストラリアのカリキュラム」の導入・実施概況

「オーストラリアのカリキュラム」は、上記したように、現在未だ開発過程にあり、既にその執筆が終了している英語、算数・数学、科学、歴史の各主要学習領域のカリキュラムも、昨年一年間の試行期間を経て、本年（2013年）1月の新学期から本格実施に至ったばかりである。また、ナショナル・カリキュラムの開発・実施はすでに各州政府の合意事項であるとはいえ、その導入時期については、ニューサウスウェールズ州のように、すでに延期を表明している州もあり、現時点で各州や各学校の取り組みについて、その具体的な内容に言及することは難しい。

ニューサウスウェールズ州では、州教育法（Education Act 1990 (NSW)）により州内のすべての学校に通う児童生徒に最低限のカリキュラム要件を満たすよう求めており、州教育委員会に教育課程のためのガイドラインを確立する権限を与えている。特に、中等教育修了資格の取得のためには、同州で指定された学習領域を一定時間以上学習していることが必要とされる。そしてそれらの学習は、州教育委員会が定める、もしくは州教育委員会が認可したシラバスに基づくものでなければならない。

各学習領域のシラバスでは、そのコアとなる知識、スキル、理解、価値、態度が明確に規定されている。そしてそれらの知識、スキル等は、各学習領域および教科のなかで育成される。この「一定のコンテキストのなかで知識、スキル等を育成する」との考え方は、「オーストラリアのカリキュラム」にも反映されている。州教育委員会担当者によれば、この点が、同州が他州と異なる点であり、これまでに高い教育成果を残してきた一つの要因だと言う。しかし、シラバスの規定を具現化していくためには、教員研修はもちろん、教材開発等、その実施を可能にするための環境整備が必須である。そのため、ニューサウスウェールズ州では、「オーストラリアのカリキュラム」の導入に際し、先行して実施される四領域については、すでに電子版のシラバス（NSW electronic Syllabus for the Australian Curriculum）が準備されているものの、州教育大臣により、それを実施する環境が整う2014年までは少なくとも延期とすることが発表されている。

ここでは、ニューサウスウェールズ州とともに、今回の調査で訪問したビクトリア州における「オーストラリアのカリキュラム」への移行のための取り組みと、そこで提示された問題点とを、特に州のカリキュラム・フレームワークにおける汎用的能力の位置付けに注目して報告する。

##### (2) ビクトリア州における「オーストラリアのカリキュラム」の導入・実施状況

ビクトリア州では、2005年以降、各学校が学校教育カリキュラムを開発する際に、「ビクトリア州必須学習スタンダード（Victorian Essential Learning Standards : VELs）」を用いるよう求めている。「オーストラリアのカリキュラム」の導入に際し、先に英語、算数・数学、歴史、科学の四領域で「オーストラリアのカリキュラム」への移行が予定されていたが、ビクトリア州では、それに伴い、VELsに「オーストラリアのカリキュラム」を組み込んだ「オーストラリア・ビクトリア州必修学習スタンダード（AusVELs）」が用意された。このAusVELsは、ACARAからの認可を得て、「オーストラリアのカリキュラム」と同じ形式で、ウェブ上で公表されているが、このようなカリキュラムの一元化とその形式の統一化は、新たなカリキュラムの段階的開発・導入に伴う現場の混乱を避けるためである。なお、参考までに、AusVELsと「オーストラリアのカリキュラム」で使用されている用語の対応関係を下記、表3に示しておく。

表 3 AusVELS と「オーストラリアのカリキュラム」で使用されている用語の対応関係

AusVELS	電子版「オーストラリアのカリキュラム」
中心的学習領域 (strand) ・ 身体的・個人的・社会的学習 ・ 教科ごとの学習 ・ 教科の枠を超えた学習	学習領域 汎用的能力 領域横断的優先事項
学習領域 (domains)	教科 (Subjects)
学習内容 (dimensions)	ストランド (Strands)
学習の焦点とスタンダード (Learning Focus and Standards)	内容に関する説明 (content descriptions)、達成スタンダード (achievement standards)

出典：AusVELS ウェブサイト (<http://ausvels.vcaa.vic.edu.au/>) より筆者作成

AusVELS は、VELS 同様、相互に関連した三つの中心的学習領域をその構造の中心に据える。これら三領域は、さらにそれぞれの関連教科 (domain) を内包する。それぞれの教科では、スタンダードが設定される項目が示され、レベルごとにその内容が提示される。学校および教員は、児童生徒にこれらのスタンダードを達成させることを目指し、各学校の教育カリキュラムを開発する。各レベルは、いわゆる学年に対応していると想定されているが、児童生徒の能力や学習の進捗状況等に応じ、柔軟に解釈すべきことも明記されている。AusVELS のうち、英語、算数・数学、科学、歴史の四教科には、すでに「オーストラリアのカリキュラム」の内容が反映されている。表 4 は、AusVELS の構造を、三つの中心的学習領域の区分に基づき示したものである。

AusVELS では、「オーストラリアのカリキュラム」で教科とともに示された「領域横断的な優先事項」の内容はすでにその構造に組み込まれているが、「汎用的能力」については、未だ ACARA での作業が完了していないこと、VELS ではすでに「身体的・個人的・社会的学習」が導入されており、理念的にはそれらで代替可能だと考えられることを理由に、現段階ではその導入が見送られている。

例えば、「オーストラリアのカリキュラム」で示された七つの汎用的能力のうち、リテラシーやニューメラシー、ICT 技能については、英語、算数・数学、ICT の各学習領域「で」育成されることが明確である。しかし、倫理的行動をはじめとする個人的・社会的能力 (personal and social capability) は、教科学習を「通して」深められる一連の知識およびスキルであり、さらに言えばいかなる特定の教科にも合致しない、倫理の領域における一連の一次的知識である。これらの知識の涵養については、それが学校教育だけにより担われるものではないことから、適切な学習環境を用意し、適切な学習経験が提供できれば自然と身につくものだとの考えも広く許容されてきた。しかし、ビクトリア州では、すべての児童生徒がこれらの能力を無意図的に身に付けられる個人・社会資本を有しているわけではないので、彼らが学ぶ教科のなかでこれらの能力を伸ばす内容・方法をはっきりと明示し、実践していくことが重要だと考えられている。

表 4 AusVELS の構造

身体的・個人的・社会的学習	教科ごとの学習	教科の枠を超えた学習
シティズンシップ (Civics and Citizenship) ・市民としての知識と理解 ・コミュニティへの参加	芸術 (Arts) ・創造と製造 (creating and making) ・探求と応答 (exploring and responding)	コミュニケーション ・読む・眺める・答える ・発表する
健康と身体の学習 ・運動 ・健康に関する知識と増進	英語 (AC) ・読む・眺める ・書く ・話す・聞く	デザイン・創造性・科学技術 ・調査とデザイン ・創造 ・分析と評価
対人関係の発達 ・社会関係の構築 ・チームでの協働	人文科学 ・人文科学に関する知識と理解 ・人文科学を操るスキル	ICT ・視覚的思考のための ICT ・創造のための ICT ・コミュニケーションのための ICT
個別学習 ・自立した学習者 ・個人での学習管理	人文科学－経済学 ・経済的な知識と理解 ・経済的な説明と解釈	思考法 ・説明・分析・調査 ・創造性 ・省察・評価・メタ認知
	人文科学－地理学 ・地理学に関する知識と理解 ・地理学を操るスキル	
	人文科学－歴史 (AC) ・歴史に関する知識と理解 ・歴史に関するスキル	
	言語 (Pathway 1、2 が存在) ・英語以外の言語でコミュニケーション ・異文化理解に関する知識と言語 認識	
	数学 (AC) ・数字と代数 ・測量と幾何 ・統計と確率	
	科学 (AC) ・科学的な理解 ・人類のたゆまぬ努力としての科 学 ・科学的調査スキル	

出典：AusVELS ウェブサイト (<http://ausvels.vcaa.vic.edu.au/>) より筆者作成

オーストラリアでは、学校教育カリキュラムは、基本的に、各学校が開発・実施するものとされている。そのため、学校教育課程基準は、学校・教員が各学校の教育カリキュラムを開発・実施する際の手引きとなるよう、教員向け資料やモデル校での実践例、教員研修等とあわせて提供されるのが一般的である。また、特にビクトリア州では、「学校全体でのカリキュラム計画 (whole school curriculum plan)」が重視されており、各学校は、その地理的・社会経済的状况を考慮しつつ、児童生徒一人ひとりの発達・成長に即したカリキュラムの開発が求められている。そのため、汎用的能力についても、評価を含め、一定程度それらの蓄積がなければ、各学校が適切かつ効果的なカリキュラムを開発・実施することは難しい。実際にこれらの汎用的能力を各学習内容に盛り込むことは容易ではなく、また評価しないのなら教える必要がないと考える教員もいるだろうことから、今後、特に評価基準の開発は必至であると考えられている。

また、VELS にはすでに「身体的・個人的・社会的学習」の領域における「対人関係の発達 (interpersonal development)」や「個別学習 (personal learning)」、「教科の枠を超えた学習」の領域における「思考法 (thinking process)」等、いわゆる汎用的能力が組み込まれ、各領域内における関連教科として一定の枠組みを与えられてきた (表 3・4 参照)。しかしながら、これらのスキル・能力は、「オーストラリアのカリキュラム」で示される汎用的能力と必ずしも一致するものではない。そのため、今後は、双方の内容の調整が必要だと考えられている。

(青木麻衣子)

#### 【引用・参考文献】

- National Curriculum Board (NCB)、 *The Shape of the National Curriculum: A Proposal for Discussion*、 October 2008.
- NCB、 *Shape Paper: Consultation Report*、 May 2009.
- NCB、 *The Shape of the Australian Curriculum*、 May 2009.
- Australian Curriculum、 Assessment and Reporting Authority (ACARA)、 *The Shape of the Australian Curriculum Ver.3.0*、 ACARA、 October 2011.
- ACARA、 *The Australian Curriculum: English、 History、 Mathematics and Science Version 2.*、 October 2011.
- ACARA、 *General Capabilities Consultation Report*、 2011.
- ACARA、 *General Capabilities in the Australian Curriculum*、 January 2012.
- ACARA 訪問時 (2012.03.05) プレゼンテーション配布資料 (Mr. Robert Randall より入手)
- Mr. Robert Randall とのメールでのやりとり (主に 2013.02.26 付けメールより)
- Board of Studies NSW、 *K-10 Curriculum Framework*、 published March 2002.
- Howes、 David、 *AusVELS: A principled and pragmatic curriculum framework、 Primary English Volume 1、 Number 2*、 pp3-10.
- Victorian Curriculum and Assessment Authority (VCAA)、 *Victorian Essential Learning Standards Overview*、 2007 update.
- 木村裕「第4章 カリキュラム」佐藤博志編著『オーストラリアの教育改革：21世紀型教育立国への挑戦』学文社、2011年、pp.79～103

#### 【引用・参考ウェブサイト】

- 「オーストラリアのカリキュラム」ウェブサイト (<http://www.australiancurriculum.edu.au/>)
- ACARA ウェブサイト (<http://www.acara.edu.au/default.asp>)
- NSW 州教育審議会ウェブサイト (<http://www.boardofstudies.nsw.edu.au/>)
- NSW ドラフト・シラバスに関するウェブサイト (<http://draftsyllabuses.bos.nsw.edu.au/>)
- VELS ウェブサイト (<http://vels.vcaa.vic.edu.au/>)
- AusVELS ウェブサイト (<http://ausvels.vcaa.vic.edu.au/>)